

## 平成 25 年度第 1 回協働クロストーク！開催報告

- 1 日 時** 平成 25 年 5 月 19 日（日） 10：30～15：30
- 2 場 所** いこいの里
- 3 テーマ** いこいの里でこんなことができる！ in いこいの里
- 4 参加者** 26 名（市民側 19 人、行政側 7 人。男性 14 人、女性 12 人。）  
農業サークル 早川莞爾、堀井義弘  
環境保全教育研究所 生月菜々子、竹中克月、西岡克浩  
エコ名人を探せ塾 佐藤恵、高野繭子、森山美代  
ジュニアリーダー『空』 梶聖悟  
四季美 長谷川勝也、八田和美、五十川商司、池田博、徳永尚  
うんすんカルタ長崎ロバイ 飯谷敬子  
NPO 法人華かご 齊藤とも子  
もってこい長崎レクリエーショングループお手玉の会  
村上幸子、藤井ミチ子、入井八重子  
地域コミュニティ推進室 篠崎桂子  
農林整備課 村本定男、山口俊郎  
市民協働推進室 原田宏子、生駒太一、佐々田隆子、吉岡利章
- 5 狙い・目標** (1) 現在実施しているいこいの里の事業について  
① 市民ニーズに合っているのか  
② もっとほかの手法はないのか などのアイデアフラッシュ  
(2) いこいの里の活性化に一緒に取り組んでくれる団体とつながる
- 6 当日の流れ**
- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 10：30～10：50 | オープニング                |
| 10：50～12：10 | いこいの里を散策（ガイド：いこいの里職員） |
| 12：10～13：00 | 休憩                    |
| 13：00～13：10 | オープニング                |
| 13：10～13：15 | 各グループ自己紹介（所属、名前）      |
| 13：15～14：40 | 各グループでワーク             |
- ① 『いこいの里を実際に歩いてみて気づいたこと。素敵だと思ったところ。イメージとのギャップ』
  - ② 『いこいの里でこんなことができそう』
  - ③ 『そのために自分の団体ができること。したいこと』

14:40~15:00	ポスターセッション 各グループの模造紙を見て回る
15:00~15:20	コーディネーター解説、 各グループでのふりかえり（参加してどうだったか）
15:20~15:30	クロージング

## 7 各グループのワークで出たイイネシールの貼られた意見

### ◆こんなことができそう

- キャンプ場として活用
- 炭焼き体験
- 数珠を栽培し、お手玉を生産する
- それぞれ得意分野のNPO等と連携する
- コーディネーターが必要
- ヒノキの間伐材を使ってナメコの栽培
- 市民農園を作る（遊休地の活用）
- ツリーハウスを作る（間伐材の活用）
- 森林ガイドツアー、あぐりさるく ⇒ ガイドの育成が必要
- 駐車場でコンサート ⇒ ステージを作る
- わんぱく体験（木登り、親子でターザンごっこ）
- 池で丸太乗り
- 田んぼで泥んこリレー
- 写真をみてその場所探しウォークラリー
- 土を使った農体験
- ウォーキングコースとして活用
- カエルファンクラブを作る
- 入植者を募集
- 夕陽鑑賞会 ⇒ 日没に合わせた開園時間の検討
- 森林浴
- 自然植物採集
- マツタケハンティングツアー

### ◆自分の団体ができること。したいこと。

- あぐりの丘にくるたびに写真を撮って、FBでPRします！⇒ 口コミの発信者になる
- 子どもキャンプのスタッフをします！
- 科学館とのタイアップ
- 行列ができるお店で修業した人（料理人など）ならきてくれる！？

## 8 参加者の感想・気づき

### ◆市民側

- 四季美のネーミングがよかった。
- 四季折々の季節にボランティアしている姿がとても印象に残った。
- 団体がいいこの里を守り、市民にいい物をとががんばっている心がとてもよかった。
- 自然の雄大さにふれたのがとてもよかった
- 夢がいっぱい詰まっている自然を守っている人の気持ちが伝わってきた。
- こんなに素晴らしく、森林浴をするのにピッタリの場所とは知らなかった。
- 入植者を募っていいと思う。
- バスで結構簡単にこれることがわかったので、これから利用したいと思った。
- 日頃思っていることが発表でき、みなさんの考えも聞けて大変参考になった。
- これからの指針になった。
- あぐりの丘・子ども王国をつくって議会を開き、今回のようなテーマで子どもの意見を参考にしたらと思う。
- 今日あぐりの丘の案内をしてもらって、今までにない楽しさがあったので、この楽しさを市民に知ってもらえたら、もっと良い場となると思う。
- いいこの里には、まだまだやれることがあるし、やる人もたくさんいると感じた。これからも、このつながりやそういった人たちを大切にすれば再生できると思う。
- 色々な人が集まると自分では想像もできないようなこともあった。
- 人のエネルギーを感じるのがあって良かった。
- 森のウォーキングは気持ちが落ち着き、すばらしいひとときを過ごさせてもらって、感謝の心でいっぱい。
- 同じ考え、意見の方が多くいたのは嬉しかった。
- できる限り急いで、できることから始めたい。
- 具体的に何から始めるか、時間を決めてやる。
- 今後やりたいことを実現させるためには、“何を”“どういうふうに”の具体的な考えまで進められたら良いなと思った。
- いろんな意見が聞けて、アプローチもたくさんあるけど、思っていることは一緒だということがわかった。
- 普通の生活の中で体験できなくなってきたことをやれる場所にする。
- 市民への上手なPR、コマーシャルが大切。メディアの上手な使い方、なによりクチコミが大切。
- 里山には人を呼ぶための素材は、たくさん眠っていると思う。ニーズを見極めて上手く活用していけば、もっと多くの人があぐりの丘に来るのではと思う。
- 長崎市の財産として、市民のいいこの場所・いやしの場所として、市民がいつでも行きたいと思う施設であってほしい。
- 霧の深さ、広さをみなさんにアピールしたい。
- 水あそび・動物とあそぶコーナー・遊具コーナーなど、着実に親しみやすくなっているの、そこにきたお客さんを山歩きや里山エリアへ誘い込むイベントや工夫があれば、市民が自然に親しむ絶好の場になると思う。農の拠点としても、育てる・食べるまで楽しめればいいと思う。

- 実際に目で見て意見交換することで、今まで気づけなかったあぐりの丘のすばらしさを知ることができた。
- 今日出たアイデアが生かせれば、もっといい場所になると思った。
- 現場を直に知ることの重要性を痛感した。
- 様々な市民団体との交流・連携を通じ、あぐりの丘の有効な活用ができるよう協力していきたい。
- 広い敷地の管理・運営の大変さを感じ、私たちの会でできる手伝いをさせていただきたいと思った。
- 会に戻り、汗びっしょりの体験を報告する。

#### ◆行政側

- 実際にいこいの里に関わっている団体の夢のある話を聞いて、いい機会だった。
- あぐりの丘部分を集客力のある施設・イベントで強化し、里山ゾーンを知ってもらうきっかけにつなげることができる仕組みがあると、全体が生きてくるのではないか。
- 来て、見て、触って、実感して初めて「自然」のすばらしさに気づくことができる。
- 多くの人に「こよう！」と思ってもらえるような「きっかけ」をいくつ提供できるかにかかっていると改めて思った。
- あぐりの丘でしかできない体験を多く見つけ出して、それを形にしたいと感じた。
- やりたいことの方角は同じだったので、あとは実現に向けて何をやればいいのかを一緒に考えるときだと思う。そのためにも市役所や職員も一歩前へ進みたい。
- いこいの里がもっと活性化するためには、色々な団体がつながっていく必要があると感じた。
- もっと団体がつながれるようにこういう場を作りたい。
- 自然を大切にしていたつもりだったが、「晴れが一番！」としてしまっていた自分に気づいた。
- 「霧の中ですばらしかった！」の言葉に改めて感動した。
- 現地を見て、イメージがより具体的になった。
- 次回はみんなで「企画してみよう！」をやって、実現に向けて進みたい。
- 同じ体験をした後で、気づいた点や解決策を話し合ったのに、自分が感じなかったことやアイデアがたくさん出てきていた。
- 改めて、違う立場の人と話をすることの重要性に気づかされた。

## 9 当日の様子

いこいの里を散策



会場の様子



グループワーク



ポスターセッション

